

テーマ1 共同研究

小学校におけるデジタル化と学力
～小学校教員を対象とした全国調査※に基づいて～

「1人1台・PCタブレット（端末）」が問う
公立学校における修得主義化した履修主義の
リアル（虚実と功罪）

1. 「端末でできること」と「とても必要」のズレの意味を問う
2. 端末機器を用いた学習活動において、教科領域等の間に生じる「活用のしやすさ」の差に見出す学力の虚実と功罪

※ 「小学校教員の教育観とこれからの小学校教育—デジタル化の流れの中で—」
公益財団法人中央教育研究所 2022年9月発刊予定（以後、中研調査と略す）

1. 「端末でできること」と「とても必要」の差に注目

中研調査※では、「1人1台」配布された端末の現状について問いを3種（Q5-1, Q5-2, Q-6）用意した。本節では、次に示す「Q5-1」と「Q5-2」の問いによって得た回答の集計結果をもとに考察を試みたい。

この春より、小学生に「1人1台」、パソコンやタブレットなどの端末機器が配布されています。

Q5-1 その端末ではA～Iのようなことは、先生の所属の学校で現在実施できますか。

A	児童一人一人の学習過程の記録の分析	1. できる	2. できない
B	児童の学習過程の記録を保護者と共有	1. できる	2. できない
C	YouTube の閲覧	1. できる	2. できない
D	インターネット等による資料の収集	1. できる	2. できない
E	画像や動画等の共有	1. できる	2. できない
F	端末を家庭に持ち帰っての使用	1. できる	2. できない
G	端末による家庭学習の提出	1. できる	2. できない
H	使用にあたっての保護者のサポート	1. できる	2. できない
I	端末を使用したオンライン授業	1. できる	2. できない

Q5-2 またそれは、小学校の教育活動に必要なだと思いますか。

それぞれに、あてはまる番号1つに○をつけてください

A～Iの選択肢はQ5-1と同一

選択の尺度は「とても必要」「やや必要」「あまり必要でない」「まったく必要でない」の4種

※「小学校教員の教育観とこれからの小学校教育—デジタル化の流れの中で—」
公益財団法人中央教育研究所

選択肢の特性の構造化

学習過程の記録の分析

学習過程の記録を保護者と共有

YouTubeの閲覧

インターネット等による資料収集

画像や動画等の共有

端末を家庭に持ち帰っての使用

端末による家庭学習の提出

使用にあたっての保護者のサポート

端末を使用したオンライン授業

教室

インターネット等による資料の収集
画像や動画等の共有
学習過程の記録の分析

家庭

端末を家庭に持ち帰っての使用
端末による家庭学習の提出
学習過程の記録を保護者と共有

オンライン

YouTubeの閲覧
端末を使用したオンライン授業

使用にあたっての保護者のサポート

使用にあたっての保護者のサポート

小学生に「1人1台」、パソコンやタブレットなどの端末機器が配布されています。

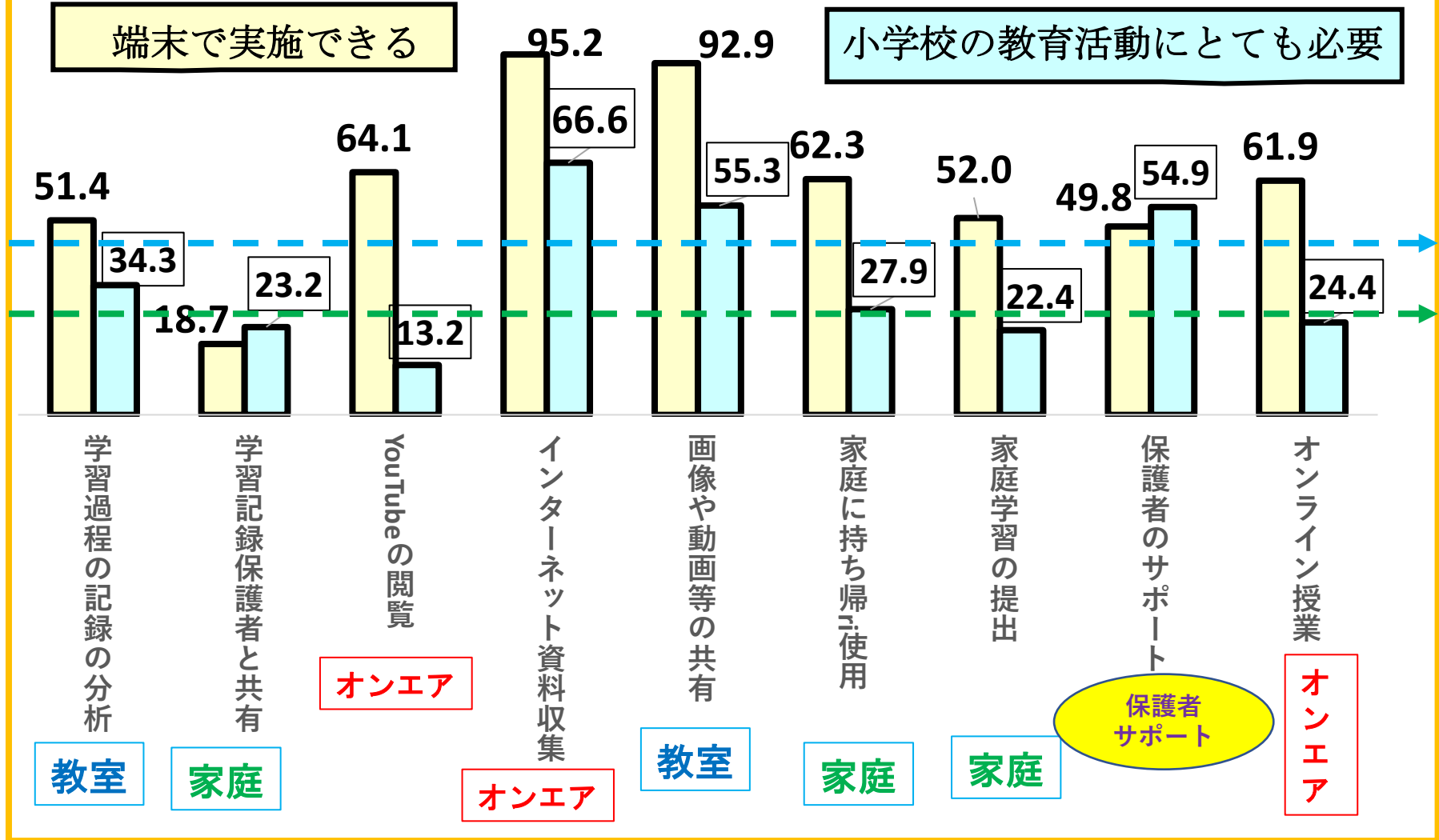
Q5-1 その端末ではA～Iのようなことは、先生の所属の学校で現在実施できますか。

Q5-2 またそれは、小学校の教育活動に必要なだと思いますか。
それぞれに、あてはまる番号1つに○をつけてください。

「できる」と「とても必要」の「ズレと一致」を「活用の場」単位に確認を

	保護者のサポート 教室 家庭 オンエア	できる	できない	無答・不明	とても必要	やや必要	あまり必要でない	まったく必要でない	無答・不明
A	インターネット等による資料の収集	95.2	3.5	1.3	66.6	31.1	1.6	0.0	0.8
B	画像や動画等の共有	92.9	5.8	1.3	55.3	38.8	4.8	0.3	0.8
C	YouTubeの閲覧	64.1	33.9	2.0	13.2	47.6	33.7	4.7	0.8
D	端末を家庭に持ち帰っての使用	62.3	36.2	1.6	27.9	45.1	23.1	3.1	0.8
E	端末を使用したオンライン授業	61.9	35.9	2.2	24.4	49.3	23.2	2.2	0.9
F	端末による家庭学習の提出	52.0	46.4	1.6	22.4	44.3	28.6	3.9	0.8
G	学習過程の記録の分析	51.4	46.4	2.2	34.3	51.8	11.9	0.9	1.0
H	使用にあたっての保護者のサポート	49.8	47.6	2.6	54.9	35.9	7.2	1.0	0.9
I	学習過程の記録を保護者と共有	18.7	79.0	2.2	23.2	49.8	24.4	1.4	1.2

機器の能力と使用者の必要度の合意なき配布



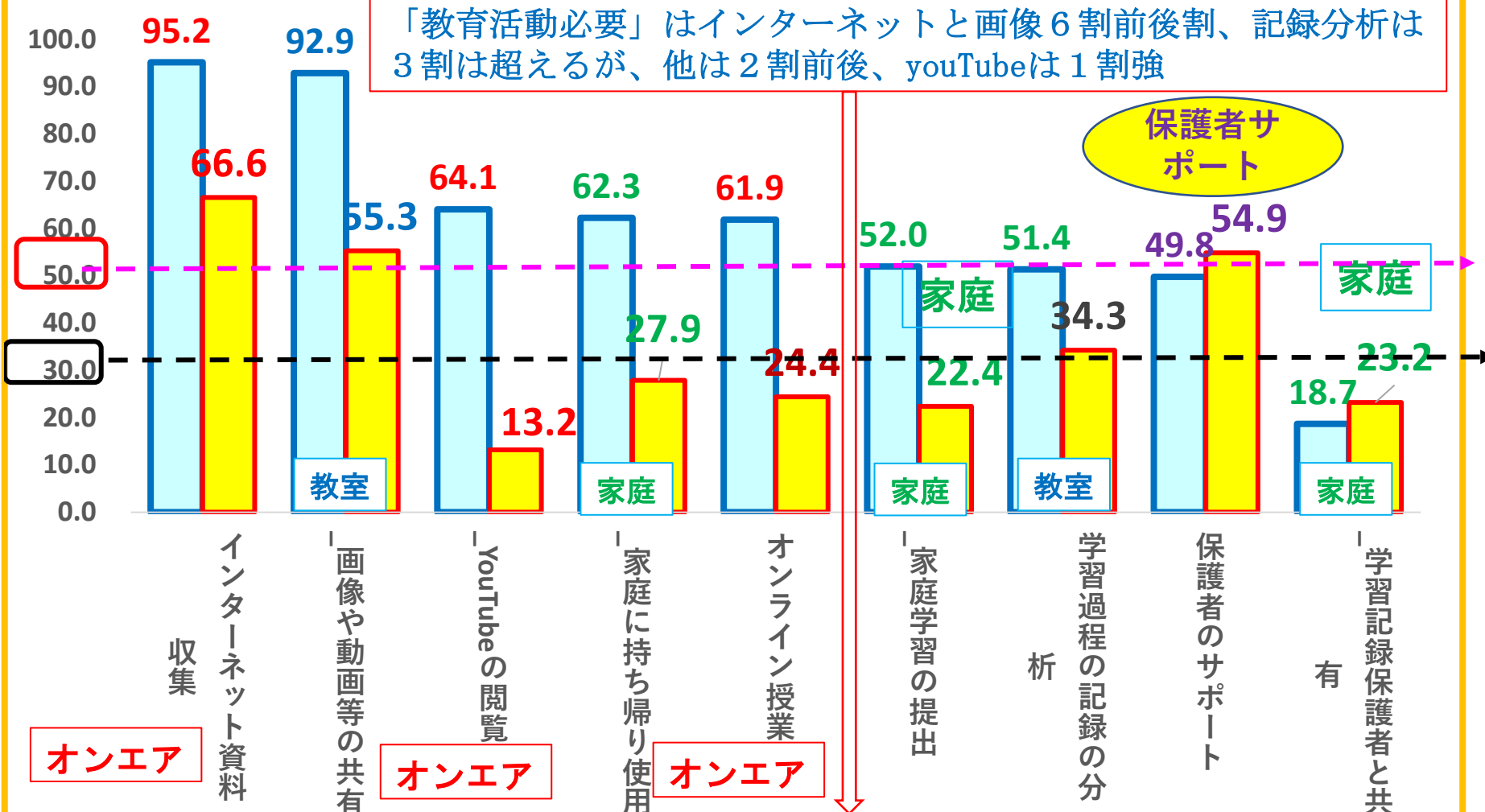
「実施できる」割合の順に並べると

Q5-1, 2 「1人1台端末機器」の機能と必要性：百分比%

「実施できる」割合の順に並べると

「できる」はインターネットと画像9割、他は5割前後、保護者共有のみ2割弱

「教育活動必要」はインターネットと画像6割前後割、記録分析は3割は超えるが、他は2割前後、youTubeは1割強



端末で実施できる

「できる」と「必要」の差の意味は？

教育活動にとっても必要

★「1人1台・タブレット」できることと必要なことのズレ

★教員のニーズと世論のニーズとのズレ

◆配布決定者（機関）、制度設計責任者、PC発注担当者、教育委員会責任者、学校の責任者、学級の責任者、学習者、保護者・・・、合意の手順なく

★全ての子どもにわたる高度な機器を、精密な制度設計（既存システムとの整合性）なく配布（同床異夢）

日本の公教育史上、唯一無二の出来事

事前を選別された知・情・意の型の共有化（履修主義の原則）のまま、意図することなく、なし崩し的に、端末（虚）の名と姿を装ってPCTablet（実）による個人化志向（修得主義の原則）が芽生えるか？（虚実皮膜）

テーマ1からテーマ2への思考≡試行錯誤メモ（馬居）

対象の焦点化

「1人1台・PCタブレット（端末）」が問う公立学校の履修主義のリアル（虚実と功罪）

思考の深化

「1人1台・PCタブレット（端末）」が問う

公立学校における修得主義化した履修主義のリアル（虚実と功罪）

修得主義化した履修主義のリアル（虚実と功罪）

1. 虚と実：天からの声（虚）としか表現できないPCタブレットの配布（実）

1) 文科省の政策形成システム外からの要請（実）

➡文部行政（システム）の中心に位置付けることを避けてきた不作為（実）

2) 日本社会の秩序（学区、学年、検定無償）と評価配分のための国民形成（虚）

➡初等教育（知徳体共有化）と中高等教育（序列一元化）の非連続（虚実皮膜）

3) 履修主義を下位⇌土台に置く修得主義の役割領域肥大化（虚実皮膜）

2. 功と罪：義務教育の入り口は履修主義➡中間混在➡出口は疑似修得主義

1) 仕切られた修得主義の制度化⇌選抜システム（含む学力調査）の正当化機能を担う履修主義（功？）➡基礎基本の境界なきラベリング（罪？）

2) 履修主義が求める共有化・画一性重視の初等教育➡規則⇌忖度⇌悪法も法（功≦罪？）

3) 修得主義化⇌選別systemのsubsystemとしての中等教育の疑似履修主義（功?≧罪）

➡中学入試準備課程を組み込む大都市小学校教育の疑似修得主義化（功罪相半ば）

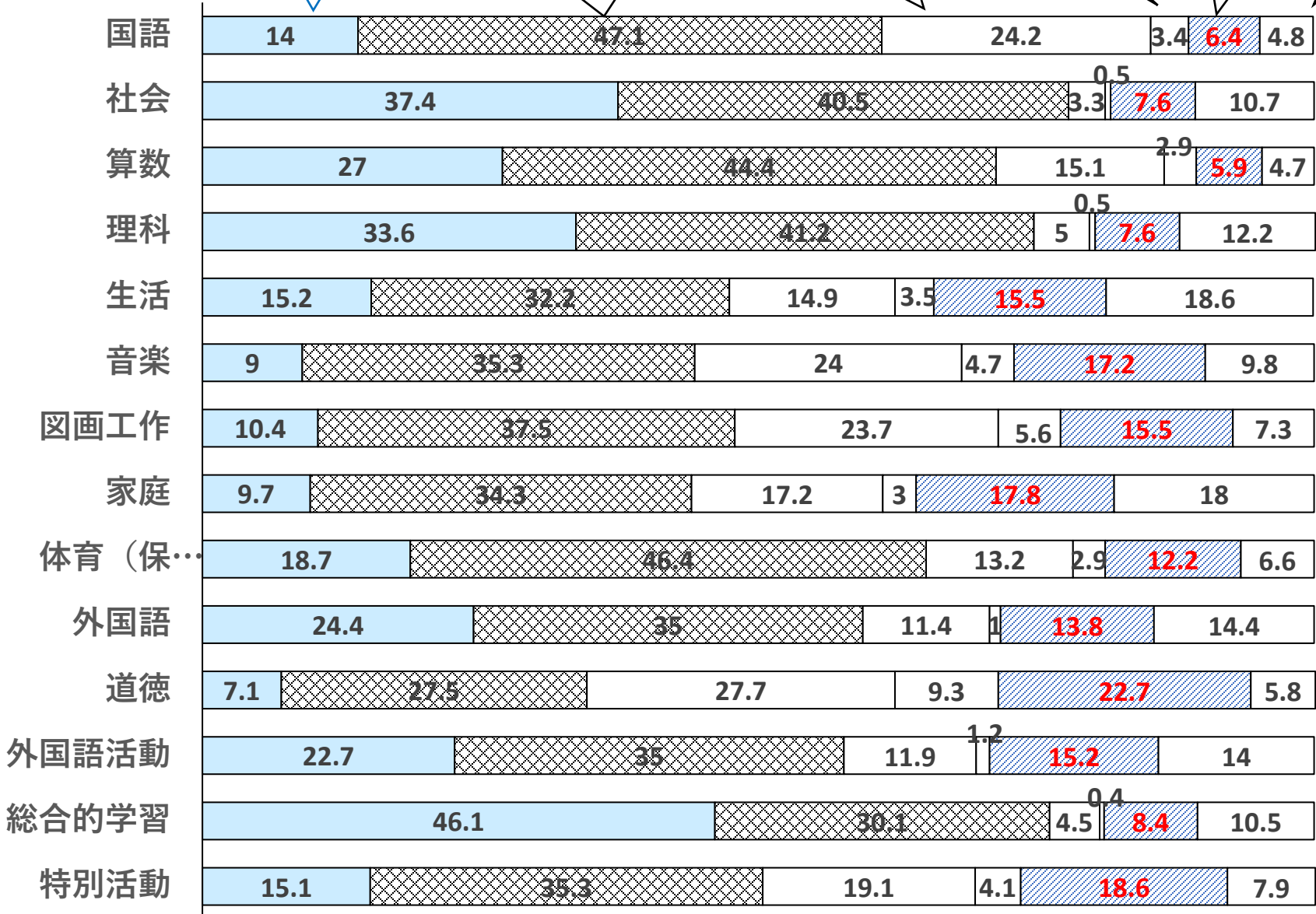
2. 端末機器を用いた学習活動において、教科領域等に生じる「活用のしやすさに差」に見る学力の虚実と功罪

Q 6 児童に配布された端末機器を用いて学習活動を行う際に、各教科領域等によって活用のしやすさに差があるでしょうか。それぞれの教科にあてはまる番号1つに○を。

	活用しやすい	どちらかといえば活用しやすい	どちらかといえば活用しにくい	活用しにくい	活用したことはない	無答・不明
国語	14	47.1	24.2	3.4	6.4	4.8
社会	37.4	40.5	3.3	0.5	7.6	10.7
算数	27	44.4	15.1	2.9	5.9	4.7
理科	33.6	41.2	5	0.5	7.6	12.2
生活	15.2	32.2	14.9	3.5	15.5	18.6
音楽	9	35.3	24	4.7	17.2	9.8
図画工作	10.4	37.5	23.7	5.6	15.5	7.3
家庭	9.7	34.3	17.2	3	17.8	18
体育（保健）	18.7	46.4	13.2	2.9	12.2	6.6
外国語	24.4	35	11.4	1	13.8	14.4
道徳	7.1	27.5	27.7	9.3	22.7	5.8
外国語活動	22.7	35	11.9	1.2	15.2	14
総合的学習	46.1	30.1	4.5	0.4	8.4	10.5
特別活動	15.1	35.3	19.1	4.1	18.6	7.9

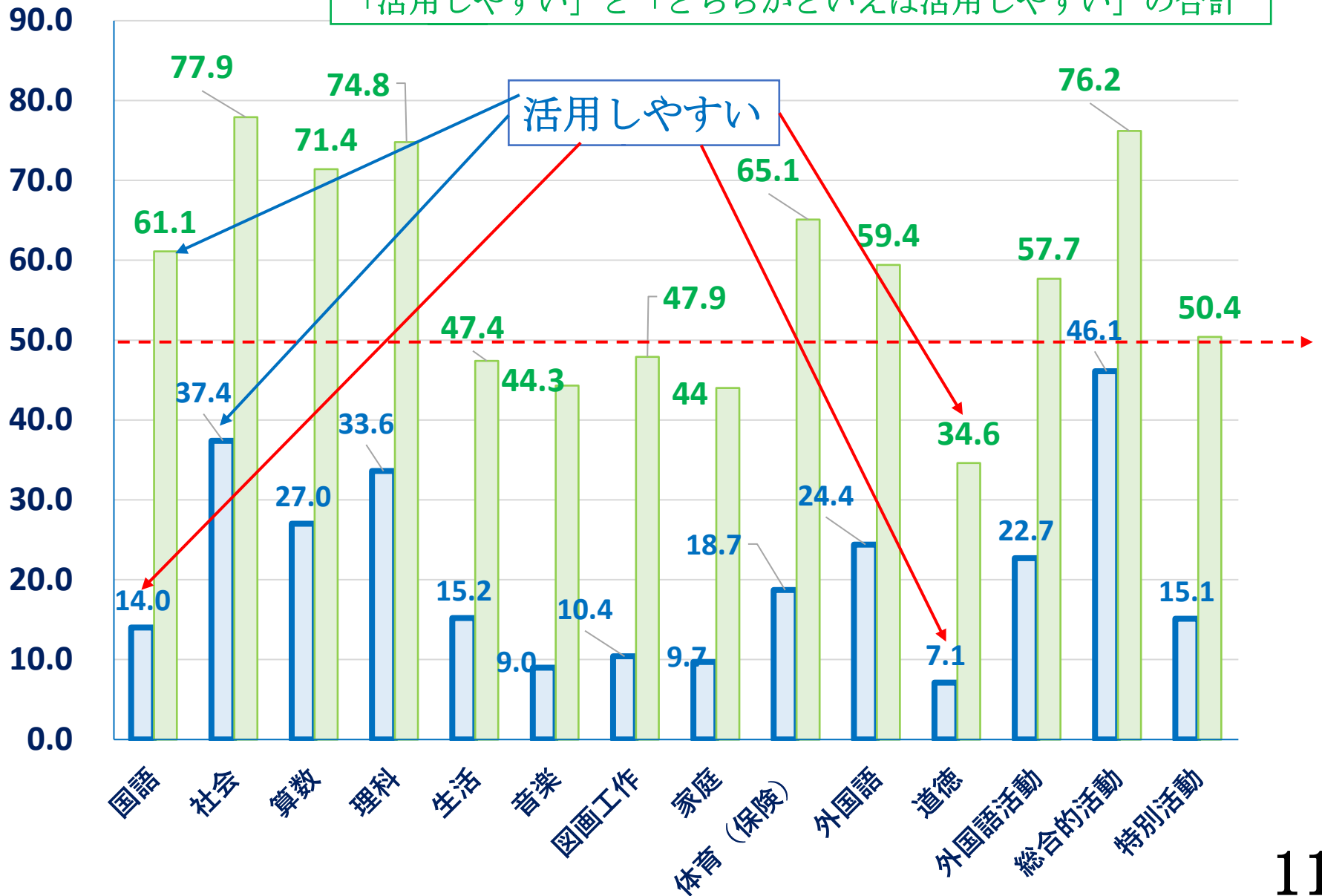
活用の答えは経験が前提

活用しやすい
 どちらかといえば活用しやすい
 どちらかといえば活用しにくい
 活用しにくい
 活用したことはない
 無答・不明

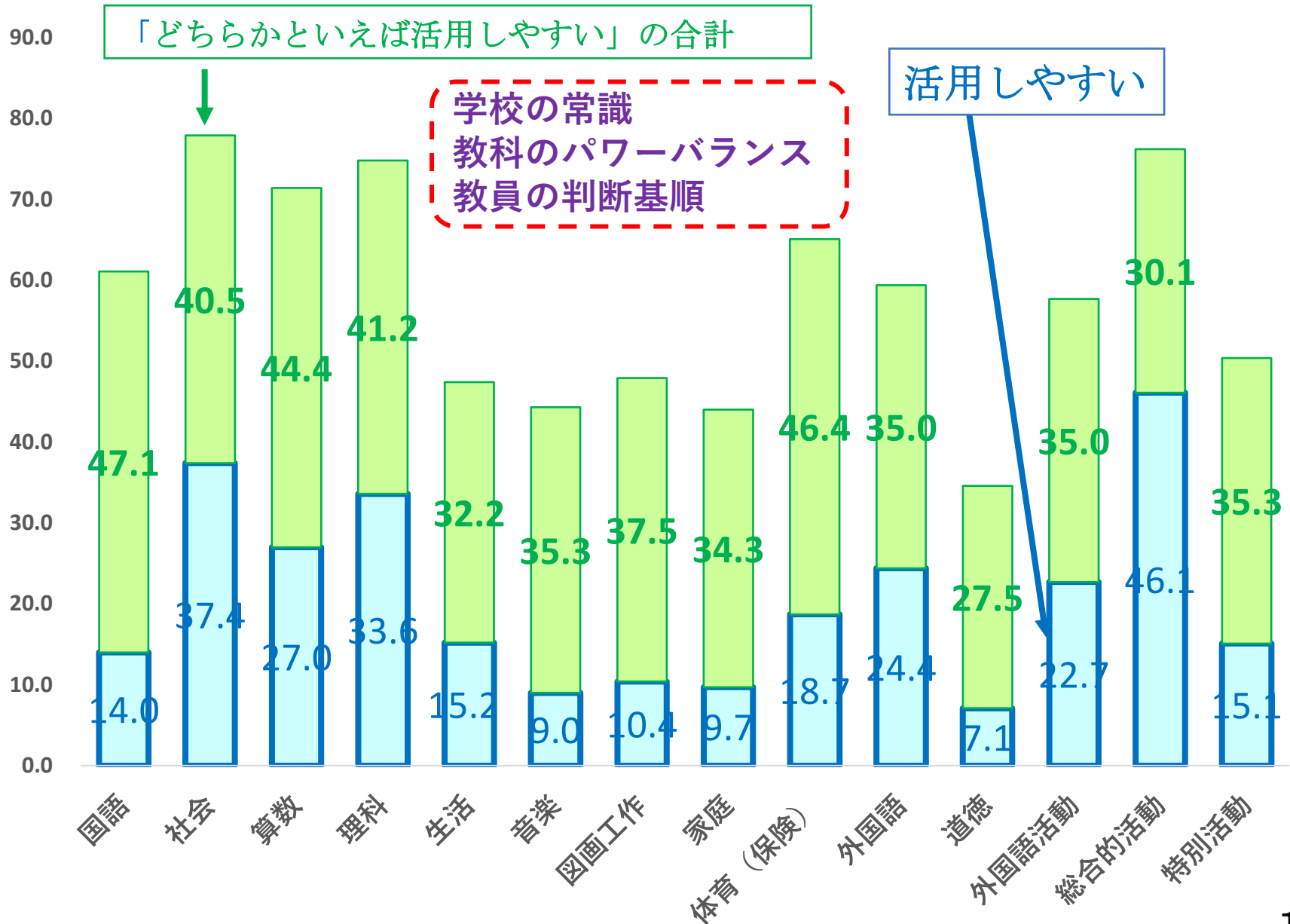


Q6 教科等別の端末の活用しやすさ

「活用しやすい」と「どちらかといえば活用しやすい」の合計

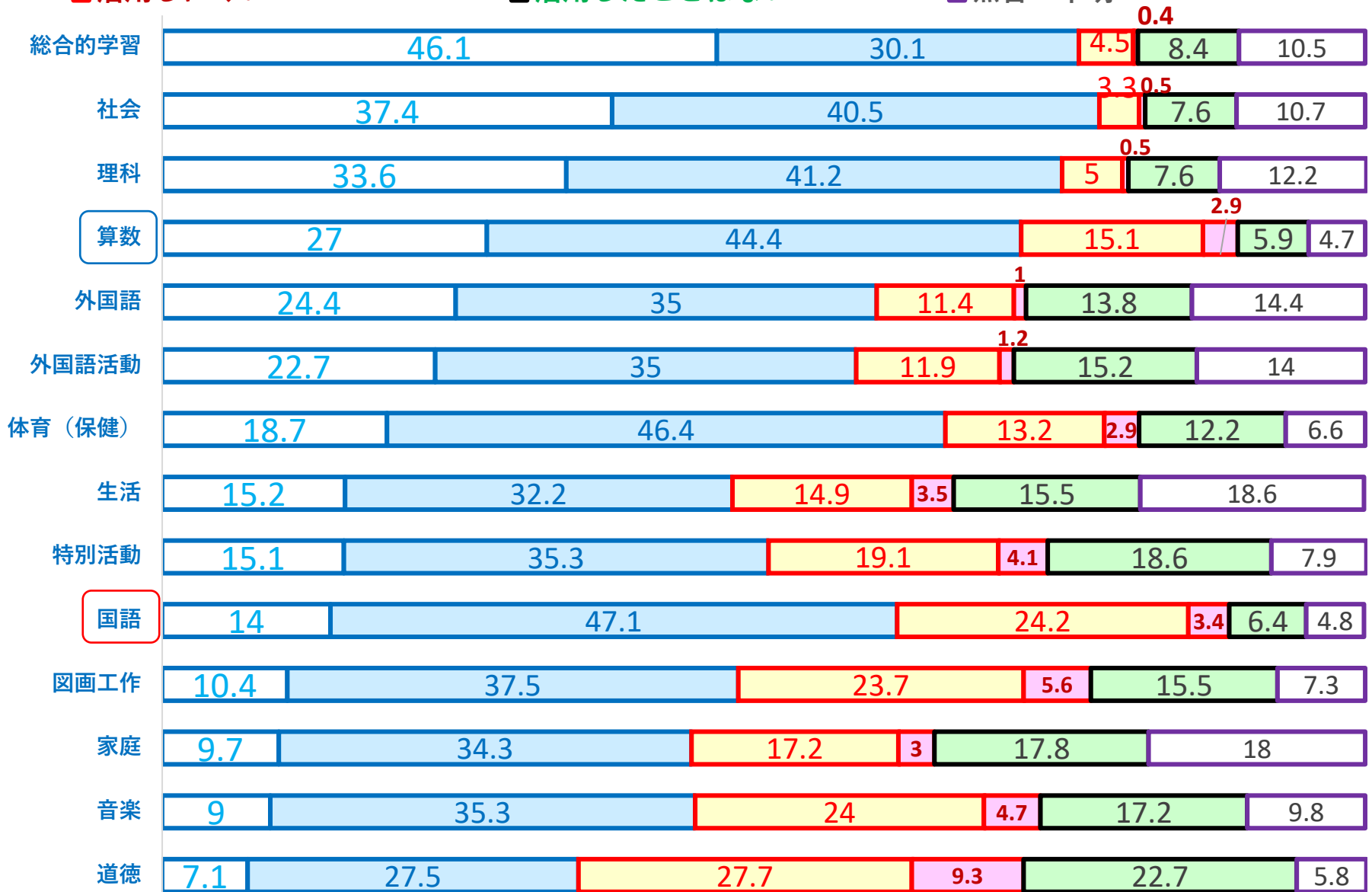


Q6 教科等別の端末の活用しやすさ

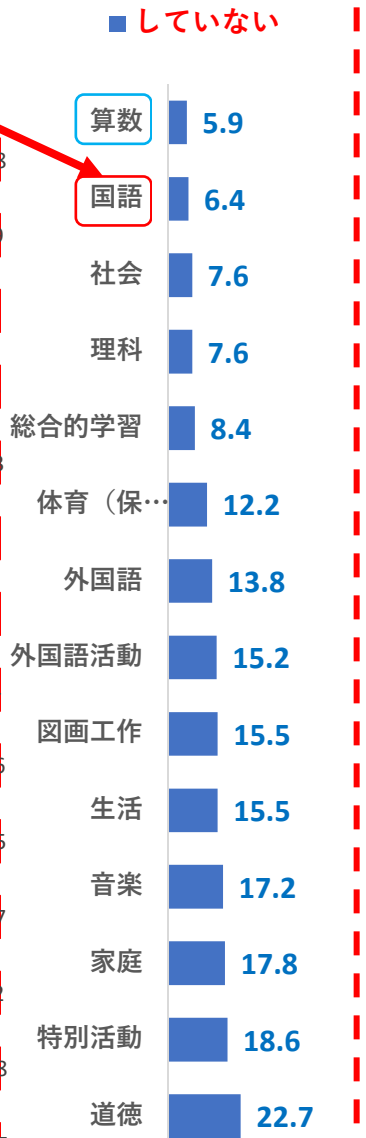
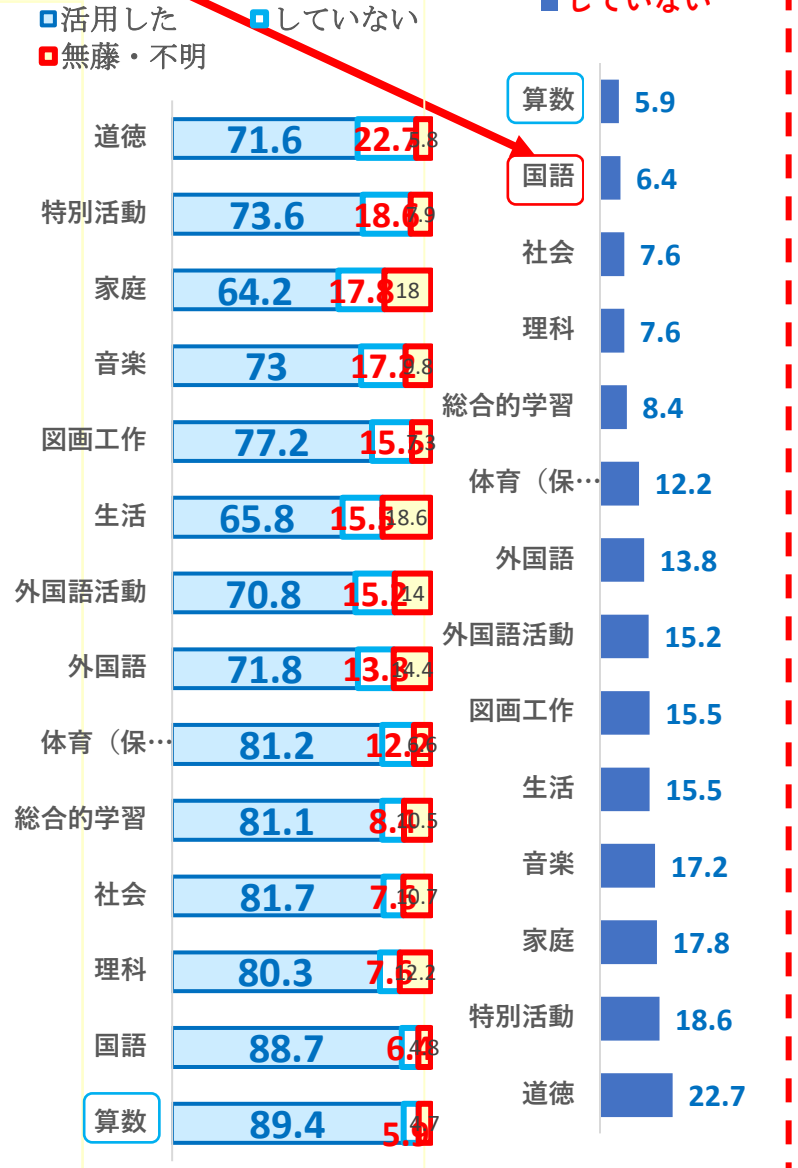
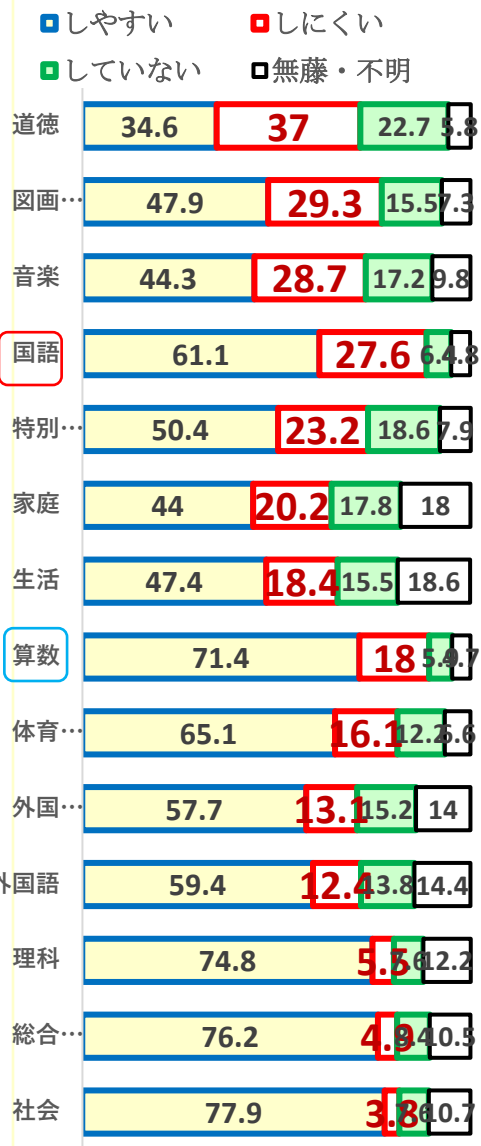
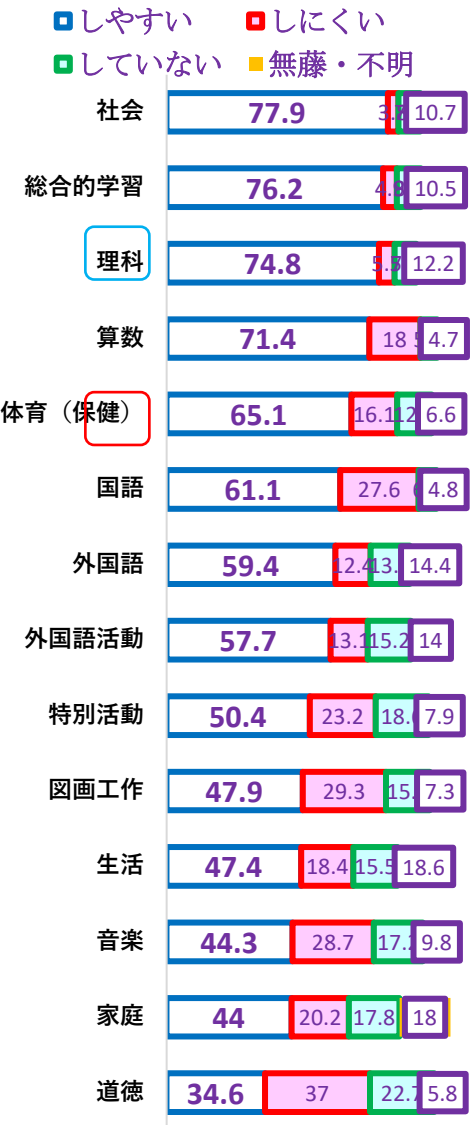


活用しやすい順に並べると

- 活用しやすい
- どちらかといえば活用しやすい
- どちらかといえば活用しにくい
- 活用しにくい
- 活用したことはない
- 無答・不明



「活用していない」の割合が低いのは「算数」「国語」の順→使ってはみたが、使いにくい、なのか？



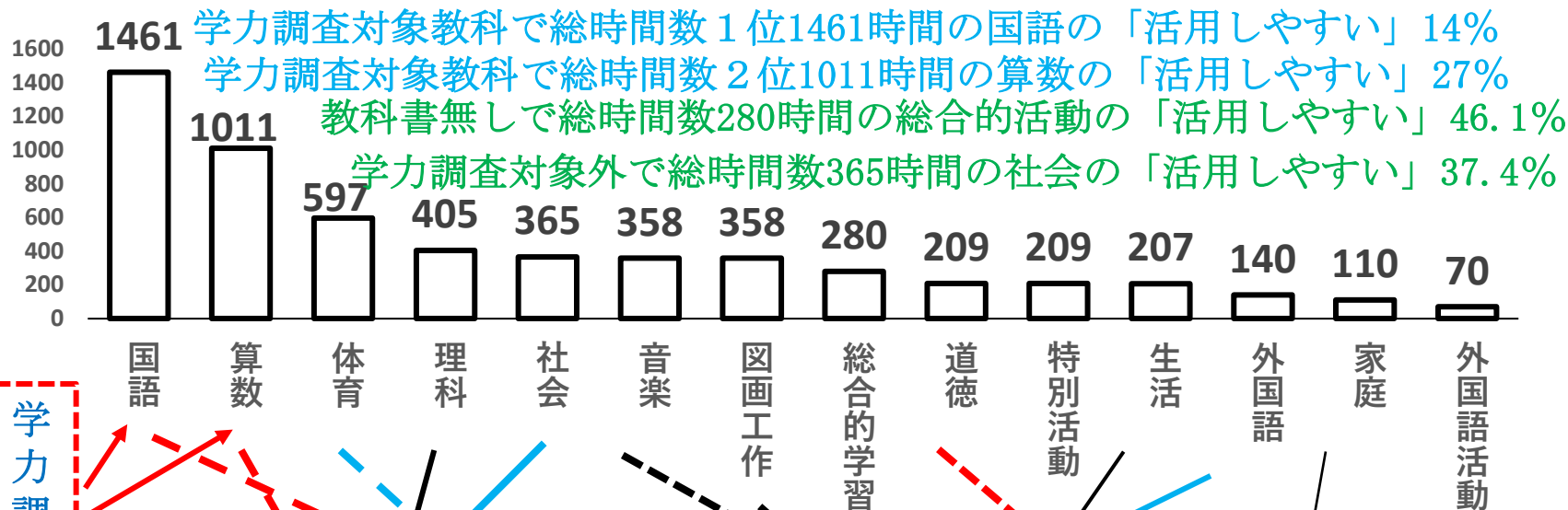
小学校の各教科等に配分された学年別事業時間数

学校の常識 教科のパワーバランス 教員の判断基順

区分		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	計	順位
各教科の 授業時数	国語	306	315	245	245	175	175	1461	1
	社会			70	90	100	105	365	5
	算数	136	175	175	175	175	175	1011	2
	理科			90	105	105	105	405	4
	生活	102	105					207	11
	音楽	68	70	60	60	50	50	358	6
	図画工作	68	70	60	60	50	50	358	6
	家庭					60	50	110	13
	体育	102	105	105	105	90	90	597	3
	外国語					70	70	140	12
特別の教である道徳の 授業時数	34	35	35	35	35	35	209	9	
外国語活動の授業時数			35	35			70	14	
総合的な学習の時間の 授業時数			70	70	70	70	280	8	
特別活動の授業時数	34	35	35	35	35	35	209	9	
計		850	910	980	1015	1015	1010	5780	

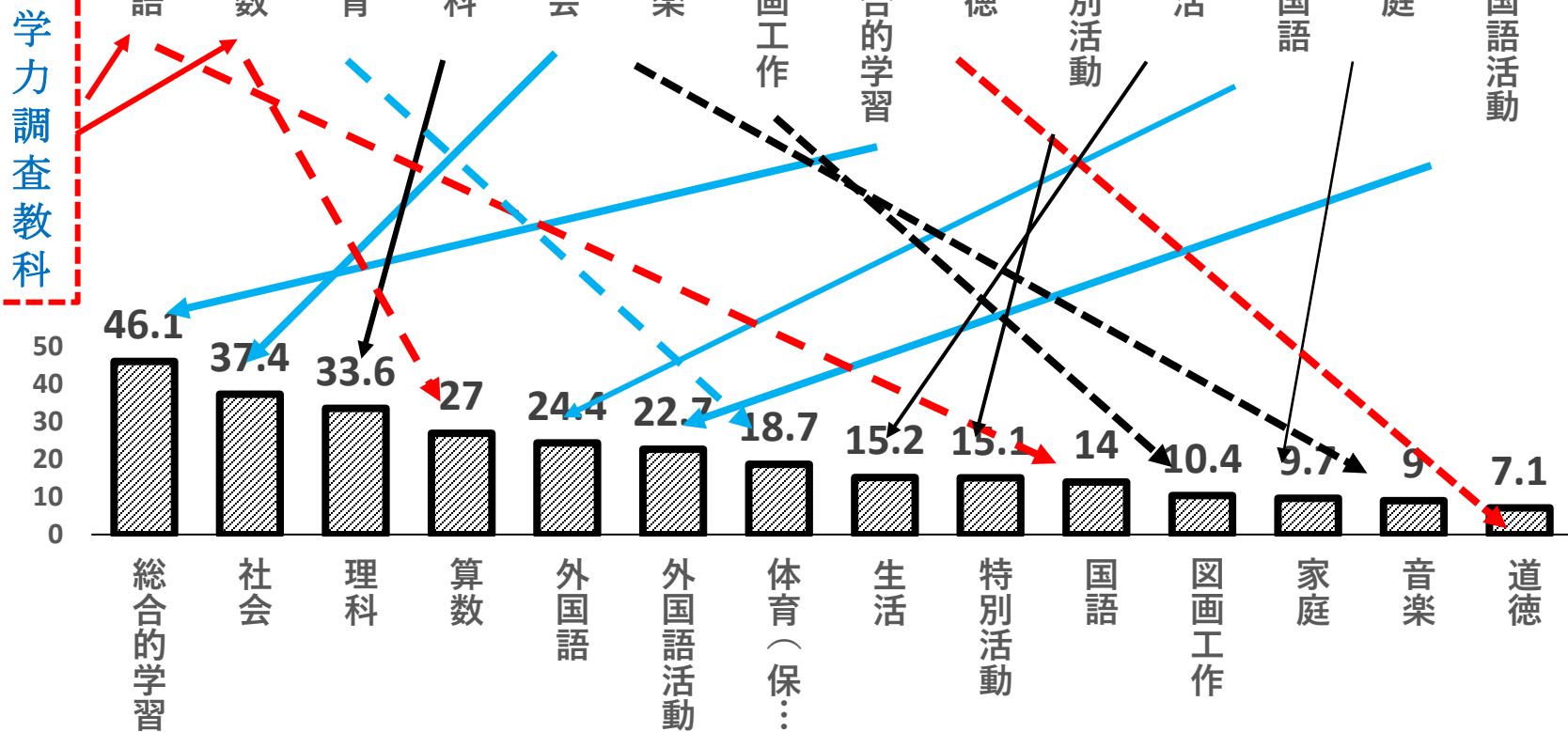
小学校の各教科等に配分された学年別事時間数
 学校の常識 教科のパワーバランス 教員の判断基順

総時間数多い順



学力調査対象教科で総時間数 1位1461時間の国語の「活用しやすい」14%
 学力調査対象教科で総時間数 2位1011時間の算数の「活用しやすい」27%
 教科書無しで総時間数280時間の総合的活動の「活用しやすい」46.1%
 学力調査対象外で総時間数365時間の社会の「活用しやすい」37.4%

活用しやすい割合順%



教科等別授業時間総数と「活用しやすい」の順位交錯のリアル

- ①GIGAスクール→児童生徒の3割を対象とする高い能力を持ったAI開発者の育成
- ②ICT教育→PCを用いてのコミュニケーション能力の育成（対象は全ての子ども？）
- ③学校教育DX→学校教育のシステム転換

いずれも、現状の学力調査では把握と評価が困難な知・情・意と思考・表現・技能・機能（効能）→中研教員調査結果分析の視野は③にまで拡大を
と私は考えていますが・・・

★中研教員調査の集計結果

- ・学力調査回答率上位県 PC・タブレットの活用に消極的
- ・授業の型、教員の授業力と子ども理解の型の確定と共有化
- ・保護者の子どもの学習への関わり方の標準化

◎PC、タブレット、スマホは学習を妨げる機器、教育機器としてのみ許容
学習指導要領、検定教科書、年齢主義、履修主義、学区固定が前提

★学力調査正答率下位県 PC・タブレットの活用に積極的

- ・上位県のような日本の学校教育の基盤が形成されていない？
- ・上位県とは異なる授業の型、教員の授業力と子ども理解、保護者の子どもと学習への異なるかかわり方が形成されている可能性・・・？

◎学力調査の先に待つ中学入試、高校入試、共通テスト、大学入試は修得主義？
デジタルシチズンシップの萌芽となりうる可能性は？

◎OECDの学力到達度調査（PISA）とのズレ≒虚構の学力？

以上の調査結果の分析から 何を読み取るか・・・

もう一つのPPTとあわせて、
ラウンドテーブルのテーマにそっての提案と討論の構想に
役立つ資料になることを願って準備しましたが

ここからは提案者と討論者の皆さん
にお任せします。

そして、特別ゲストのお二人には、
学校現場に掉さす知.情.意のアドバイスの準備を
お願いします。

馬居も同時進行で分析作業を進めます。